

新潟日報に掲載されました (2020年8月27日発刊)

レスで、高さ1.1m、重さ約4kg。ペダルを100万回踏む耐久試験にも合格した。

幅広い年代に親しんでほしいと、商品名は「消毒係踏みちゃん」にした。高橋静夫取締役工場長は「自動車で培ったノウハウを生かしており、耐久性には自信がある」と語る。

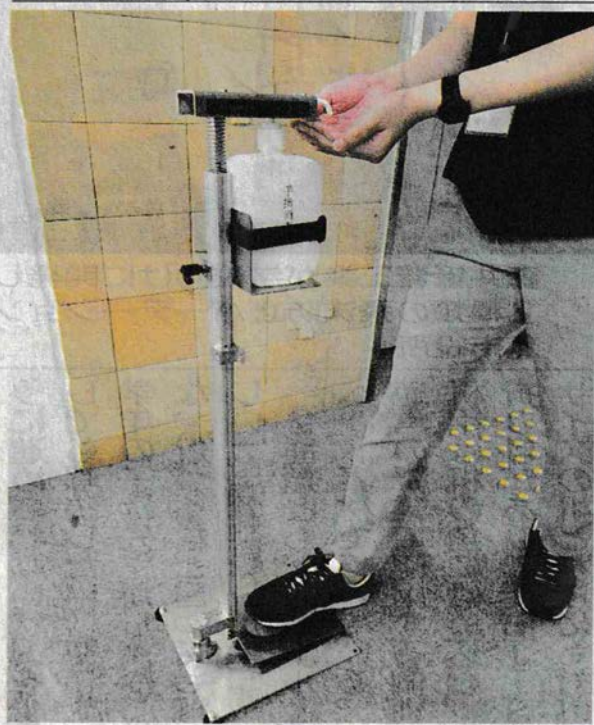
新型コロナウイルスの影響で新車販売が低迷し、同社の売り上げも減少する中、「設計開発から生産まで一貫してできる工場の特徴を生か

したい」と開発に着手。同市や津南町の事業所、福祉施設に二一式などについてアンケート調査を行った上で、約3カ月かけて商品化した。

19日には、足踏み式スタンド5台を十日町市に寄贈した。関口芳史市長は「対策の基本である手指消毒が衛生的で簡単に行える。他地域にも広がってほしい」と話した。市は寄贈分を市役所と各支所に設置。各診療所や市医療福祉総合センターにも導入する予定だ。

新型 ウイルス

新型コロナウイルスの感染を防ぐため、自動車部品メーカーの宮本警報器十日町工場（十日町市山谷）が、足踏み式消毒液スタンドを開発した。足元にあるペダルの幅を広めにし、位置を低くして踏みやすくしてい



る。耐久性にも優れているという。

足踏み式だが、液が入ったボトルを押さえている金具に触れても噴き出すようになっており、足を動かしづらい高齢者に配慮している。ポンプの高さを変えらると1回に使う量が調整できる。材質はアルミとステン

消毒液スタンド開発

十日町の自動車部品工場

足踏み式耐久性も自信